

クロアチア情勢（2019 年 6 月）

在クロアチア日本国大使館

2019 年 9 月

1. クロノロジー

【内政】

1 日	クロアチア北部のチャコベツ市において、ロマ系住民による犯罪に行政が適切に対処していないとして抗議するデモ「I want normal life」が行われ、約 1000 人が参加。
3 日	治安・情報庁（SOA）は、一般向けに2018年の年間報告を公表。国内の治安情勢は安定しているものの、ISIL支配地域にいるクロアチア国籍保有者は7人であることや、ここ数年、多くのサイバー攻撃の標的にされてきたこと等を報告。
5 日	（1日のデモを受けて）ボジノビッチ内務省がクロアチア北部のチャコベツ市を訪問し、犯罪対策のため警察官の追加配置を決定。
7 日	野党「人間の壁」所属のブニャツツ議員が、欧州議会前の党内合意に反する行動をしたとして党員資格を停止され、同議員は8日以内に議員辞職する旨発言。
9 日	北東部カスタブ市で、4月末に暴行を受けた同市セルビア系少数民族評議会の副議長で独立民主セルビア党（SDSS）員のラドエ・ペトコビッチ氏が死亡。プレンコビッチ首相は、ペトコビッチ氏の遺族に弔電を送るとともに、数民族を直接対象としたこの暴力と不寛容の行為を厳しく非難した。
10 日	クロアチア南部ブラチュ島のスペタルにおいて、スプリット市のサッカーチームのファンが、季節労働のために同島を訪れていた4名の若者及び1名の消防士に対し、セルビア語訛りを話していたことを契機に暴行した。暴行を受けた者の中にはセルビア系住民も含まれていた。グラバル＝キタロビッチ大統領及びプレンコビッチ首相は、それぞれ本事件について、民族主義的攻撃として強く批判した。
11 日	シサク・モスラバ県の日記念行事が行われ、グラバル＝キタロビッチ大統領及びプレンコビッチ首相が参加。
13 日	年金保険法改正による老齢年金受給開始年齢の引き上げ（65から67へ）に反対する労働組合が、金受給開始年齢の再引き下げを求める国民投票実施のための署名748,624名分を議会に提出した（国民投票実施のためには、373,568名分以上の署名が必要）。ヤンドロコビッチ議会議長は、署名の有効性の確認を含む関連手続が今後開始される旨説明した。
14 日	利益相反委員会が「ホットメール問題（注）」へのプレンコビッチ首相の関

	与につき審議を行うにあたり、ノバコビッチ同委員会委員長を除外するか否かにつき、野党が議会の会憲法・規則・政治制度委員会がこれを議論することを求めていたが、与党による反対多数により右議論は行われなかった。
17日	野党社会民主党（SDP）の幹部会は、次期大統領選挙の候補としてミラノビッチ元首相を擁立することを、党中央委員会に提案する旨決定した。また、同幹部会終了後、「ミ」元首相は記者会見を行い、大統領選挙への出馬を表明。
	与党クロアチア民主同盟（HDZ）設立30周年記念行事が行われ、プレンコビッチ首相は、同行事における演説の中で、グラバル＝キタロビッチ大統領が次期大統領選挙に出馬することを期待しており、HDZは同大統領を支持する旨発言。
20日	クシュチェビッチ行政相が、ブラチュ島のネレジシュチャ町における個人資産に関し、不動産登記をしていないことが報じられた。
22日	ブレゾビツァ森林記念公園において、「反ファシスト闘争の日」記念式典が開催された。ボシュニャコビッチ司法大臣が首相名代として参加した一方、大統領やその代理は参加しなかった。野党SDPからは、ベルナルディッチ党首、ミラノビッチ元首相等が参加した。
23日	歌手のミロスラブ・シュコロ氏が大統領選への出馬を表明。
24日	利益相反委員会が、クシュチェビッチ行政相の不動産登記漏れについて審議を開始。
25日	大統領府において、建国記念日記念式典が開催された（1991年6月25日は、クロアチア議会が旧ユーゴスラビアからの離脱プロセスを開始する旨の決議（いわゆる独立宣言）を採択した日）。同式典に先立ち、ザグレブ市内のミロゴイ墓地での献花式に出席したグラバル＝キタロビッチ大統領、ヤンドロコビッチ議会議長及びプレンコビッチ首相は、建国記念日を元の5月30日（1990年5月30日、クロアチアで初の複数政党による民主主義選挙を経た議会が招集された日）に戻すことが望ましい旨発言（建国記念日は2002年に変更された経緯がある）。
29日	連立与党の人民党（HNS）が、クシュチェビッチ行政相の辞任を要求。

（注）「ホットメール問題」：アグロコル社の債務処理に係る「アグロコル法」案策定の過程においてダリッチ前経済・中小企業相が、民間の法律事務所・コンサルタント関係者等に同法案の作成等につき意見を照会し、同関係者が、法案施行後に、アグロコル社の再建・清算に関与し、報酬を得ていたことが問題視された事件。

【外交】

1-8日	ヤンドロコビッチ議会議長が訪日。天皇皇后両陛下による御引見、安倍総理表敬、両院議長との会談、河野外務大臣との会談、石井国土交通大臣との会談が行われるとともに、同議長は広島及び京都を訪問した。
6日	グラバル＝キタロビッチ大統領が、スロベニアで開催された「3海域イニシ

	アチブ」首脳会合に出席。同大統領は、ユンカー欧州委員会委員長が本会合に出席したことは欧州委員会による同イニシアチブへの支持を確認するものである旨述べた。
	リンケビチュウス・リトアニア外相がクロアチアを訪問し、プレンコビッチ首相及びペイチノビッチ＝ブリッチ外務・欧州問題相と会談を行った。
6-7日	ユンカー欧州委員会委員長がクロアチアを公式訪問し、グラバル＝キタロビッチ大統領及びプレンコビッチ首相と会談を行った。
7日	新EU首脳人事を巡り、プレンコビッチ首相を含む6名のEU首脳がブリュッセルにて非公式夕食会に参加。
12日	スロベニアが、リュブリャナ銀行外貨預金未返還問題を巡り、欧州人権裁判所にクロアチアに対する訴訟を提起していた問題で、欧州人権裁判所で口頭弁論が行われた。
	欧州司法裁判所は、クロアチアとスロベニアの国境画定問題に関し、7月8日に口頭弁論を行う旨を決定。
13日	ペイチノビッチ＝ブリッチ外務・欧州問題相は、イタリア、マルタ及びサン・マリノを訪問し、各国外相とそれぞれ会談するとともに、イタリア及びマルタにおいては、両国の欧州評議会議員会議（PACE）代表団メンバーとも会談を行った。
17日	グラバル＝キタロビッチ大統領がエストニアを訪問し、カリユライド大統領、ラタス首相、ポッルアース国会議長と会談を行った。
17-19日	中国の韓長賦（Mr. Han Changfu）農業農村部長を団長とする視察団がクロアチアを訪問し、政府関係者と会談したほか、農業生産者や食品企業等を訪問した。
19日	シーヤールトー・ハンガリー外務貿易大臣がクロアチアを訪問（詳細は経済欄に）。
25日	欧州委員会は、新たな駐クロアチアEU大使として、ブルガリア人のオグニアン・ズラトフ氏を任命。
26日	欧州評議会議員会議（PACE）による欧州評議会事務局長選挙が行われ、159票対105票により、ペイチノビッチ＝ブリッチ外務・欧州問題相がレンデルス・ベルギー外相を破って当選した。

【経済】

4日	世界銀行は、世界経済見通しを公表。クロアチアの2019年及び2020年における経済成長率はそれぞれ2.5%と、1月時点の見通し(2.8%)から下方修正。
6日	政府は、2019-2021年の公的債務管理戦略を閣議決定。同戦略に基づき、政府債務残高対GDP比は、2019年71.6%、2020年68.5%、2021年65.4%となる見通し。

7 日	信用格付会社フィッチ・レーティングスは、クロアチアの信用格付を公表。長期外貨建て発行体デフォルト格付を「BB+」から「BBB-」に1段階引き上げるとともに、将来見通しを「ポジティブ」に据え置き。今回の見直しにより、クロアチアの格付は投資適格に復帰。
19 日	政府は、観光部門及び建設部門における労働者不足に対処するため、同部門における外国人労働者の受入枠の引上げを決定。2019年全体の外国人労働者受入枠は、65100人から68100人に拡大。
	チョリッチ環境保護・エネルギー大臣とハンガリーのシーヤールトー外務貿易大臣は、天然ガス市場における協力の可能性を検討するため、両国の専門家によるワーキング・グループを設置することで合意。
27 日	政府は、国有財産管理に関する国家戦略（2019-2025）の素案を閣議決定。国有財産の活用促進、コスト効率化、管理の透明化のほか、ポートフォリオにおける不動産の減少、国有財産を活用した投資プロジェクトの拡大等などが主な柱。今後、クロアチア議会で議論される予定。
28 日	プレンコビッチ首相ほか政府5閣僚、現代自動車及びポルシェ社関係者がリマツ社を訪問し、自動車産業の潜在性やクロアチアへの誘致策等について懇談。